

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】(2ユニット/1階)

事業所番号	2793300118		
法人名	株式会社フレンド		
事業所名	グループホームフレンド天下茶屋		
所在地	大阪府大阪市西成区天下茶屋北2丁目1-22		
自己評価作成日	令和3年9月24日	評価結果市町村受理日	令和3年12月2日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 FGビル大阪 4階		
訪問調査日	令和3年10月1日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご利用者様の生活に安心安全に事故無く過ごして頂けるように 事故等の検証と改善策の共有を行っている

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

2011年11月に開設後10年を経て、現在はシノケンウエルネスの傘下で運営されている。優れている点はPDCAサイクルが日常的に機能している。服薬事故防止のために、服薬介助のルールを作り、配薬ロボットを導入した結果ここ2年間、服薬事故ゼロを実現しているなど、介護事故があれば、必ずカンファレンスが開かれ、原因を調べて対策をたて、再発防止に活かされている。これらは法人主導で行われ、その他のルールや記録も見える化し、職員全員が共有できる。実施状況は3か月に一度の内部監査で確認している。身だしなみ・虐待・接遇・ハラスメントなど多項目のセルフチェックを毎月実施し職員の意識を高める努力をしている。紙からICT記録に切り替え、各居室にセンサーロボットを導入して利用者の生活の質の向上につながるよう図っている。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員に毎月会議を通して伝え、実践できている	会社理念は「地域の中でその人らしく暮らす、地域に密着した尊厳ある暮らし、その人がその人らしく暮らす」で玄関や各フロアに額装して掛けてある。フロアごとにみんなで考えたスローガン「一日一歩」「コロナに負けないで笑顔で過ごそう」が利用者にもわかりやすいように大きく書いて貼っている。会社からは毎月の目標が示され実践に向けて努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナの影響もあり外部との交流がなくなっている	三角公園の目の前にあるという特性から地域とつながりを持つことは困難な状況にある。それでも、コロナ禍以前は近所の古い商店街に買い物に行ったり、ふれあい喫茶や地域イベントに参加し、ボランティア訪問もあったり、努力していたが、現状はすべての活動が止まっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現状できていない。今後地域との関りを持ち個人個人の役割が持てるようにする。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	実施しているが、書面開催の為 ご家族様からのご意見等が届かず反映できていない	ここ2年ほどは、書面のみを地域包括支援センター、民生委員、家族に送っている。地域包括支援センターは意見を送ってくれているが、他は一方通行になっている。前回調査の課題になった、町会、民生委員の参加は働きかけが始まった頃にコロナ感染拡大となり達成出来てない。今後も努力目標となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	定期的に電話連絡で行っている	生活保護関連で担当部署とは頻回な連絡を取っている。介護保険課には医師の意見書をもらいに行き、その他の連絡はメールで届くことが多い。区社協の「権利擁護の安心サポート」を利用している利用者には、必要な支援をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修の実施と2か月に一回の会議を行い身体拘束に繋がらないようにしている	指針は作成済みで、適正化委員会、研修も会社の様式に則って適正に実施されている。現在身体拘束の事例はなく、毎月のチェックリストによって職員は自己点検している。不審者の侵入に備えて、門扉と玄関は閉められているが、内部は自由に動くことができる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修の実施を行い都度問題が起こった時に職員で話し合いの場を設けている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者とフレンド大阪事務所間での相談する機会はあるが、職員が学べる機会を作る必要がある		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に十分な説明を行い、ご理解いただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情要望報告書・アンケートハガキの設置など常に意見の行き来ができるようになっている	会社が2か月に1回家族アンケートはがきを家族に送り満足度、改善点、意見要望をきいている。何かあれば、会社から連絡があるが、近年その事例はない。家族のいない人が半数以上で日常の会話の中から、本人の意見要望を汲み取っているが、「外に出たい」以外はあまりない。家族には主に電話連絡をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回のフロアごとに会議を設定し、職員個人面談の実施をしている。	管理者、計画作成、リーダーの会議が月1回あり、会社からの連絡や報告を受けて、月一回のユニット会議で報告、説明をしている。ユニット会議はみんなでケア方法をケアカンファレンスもかねて検討している。職員の入れ替わりも一段落し、意見の出やすいよい雰囲気が育ってきている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤怠報告書・夜勤業務報告シートなどにより、勤務内容の把握に努め、残業の抑制、手当てによる評価、個人にあった仕事や役職を掲示している		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナの影響で、外部への研修の参加が難しくなっているが、社内での動画などを使った研修を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナの影響により交流は出来ていない		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前からの情報をもとに、ご家族様・ご本人様・関係者との話を行い信頼関係づくりに努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面談をご本人様・ご家族様・関係者と話し合い、ご意見ご要望を尊重し、信頼関係を作っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様の状態を周りの支援者の方と相談を行い、ご本人様に合ったサービスを提供している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	常にコミュニケーションをとりながら、共に過ごす環境作りを行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナの影響によりご家族様へ現状のご様子を見て頂けないが、現在のご様子などは電話にてお伝えし、今後の対応等についてもご家族様のご意見を尊重し、支援している		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	過去の生活歴を元にアセスメントを行い、ご本人様が馴染みの場所への参加ができるようにしている。	馴染みの場所へ行ったり、人に会ったりはできない現状では、その人の今までの生活習慣が途切れないような支援を心がけている。洗い物や食器拭きなどの家事のほか喫煙習慣のある人には一日の本数や喫煙場所、時間を決めて楽しみの時間を確保している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	それぞれの個性を活かせるように支援内容を検討しながら共同生活の中で、関われる時間を作っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	窓口を設け情報の提供、生活の相談など行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	お一人お一人の希望や意向に沿えるように把握は行っている。困難な場合断ち切らずご本人に沿えるように考えている。	家族がいない認知症の人では、生活歴不明な人もいるし、過去を話したがらない人もいて、ひとり一人の意向や思いを押しはかりながら、何気ない日常会話から把握しようと努め、申し送りや会議で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	面談や情報提供により、把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	記録と情報共有により実施できている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	外部との関係作りを行いながら、チーム全体で考えた介護計画を作成していく。	介護計画書のサービス内容(第2票)を個人介護記録に貼って計画書に沿ったケアができるように工夫している。ひとり一人にあった手順書を作成し、スタッフ皆が同じ内容のケアができるように努めている。短期計画の期限ごとに、本人、家族、スタッフ、医師などの意見を聞いてサービス担当者会議を開いて計画を更新している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録の必要性を職員にしっかりと説明を行い、今以上にご本人様に沿った介護計画をできるように努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	可能な限り柔軟な支援に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナの影響により小さい資源の活用が今現在出来ていない。情報共有しながら今後は活用していきたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している	月二回の訪問診療を依頼し、緊急時の電話対応(24時間)をおこなって頂いている。他科受診等が必要な場合の紹介なども、おこなって頂いている。	利用者は協力医療機関のクリニックの医師をかかりつけ医として月2回の往診を受けている。当クリニックとは24時間オンコール体制にある。他の眼科、皮膚科等の専門科の受診は管理者が同行して支援している。毎週1回、訪問看護ステーションより看護師が利用者の健康管理を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護により、健康管理やアドバイスを受けながら、支援を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院先との連携を細かくとることにより、早期の退院の調整や情報共有ができています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化及び看取り介護に関する指針を書面にて準備しており、ご本人の状態の把握を行い、早期にご家族様への状況説明を行いながら、看取りの段階の時に、医師・看護師・ご家族様・その他関係者とで今後の方針を話せる機会を設けている。	入所契約時、利用者・家族に重度化・看取りの指針を示して同意書を交わしている。重度化した時点で協力医療機関の医師、利用者・家族、事業者側（管理者と職員）の三者で看取りの方針を話し合い、改めて同意書を交わしている。現在、3名の看取り対象の利用者がいるので管理者が職員に事前の看取り指導を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを使った研修等を行い、急変時や事故発生時の対応の確認はできている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練を活用し、災害時の体制は出来ている	災害対応マニュアルを各階に備え、避難経路を各フロアに掲示して職員に周知を図っている。消防訓練を年2回（1回は夜間対応）消防署に届けて実施している。水害時の避難場所は建屋屋上と決めている。災害備蓄品は、1階の事務所に水、乾パン、缶詰、備蓄米を三日分準備している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	研修を行ったりヒヤリングを行い、不適切な対応があった場合は面談等で確認し指導を行っている。	職員は毎月初めに法人指定のセルフチェックシート《接遇・身だしなみ・パワハラ〈利用者、職員〉セクハラ〈職員〉の項目》で自身の行動の振り返り、利用者の尊厳を守る介護実践に努めている。新入職員研修では必ず接遇・人権研修を行い、また毎年職員には年間研修の中で虐待防止等の人権研修を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員によっては不適切と判断される事例があれば面談等を行い改善している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員に個人差があり、ひとり一人のペースを考慮し希望に沿える支援ができるように全体で取り組む必要がある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい身だしなみなどの支援を、考えていく必要がある。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	職員の支援に対する理解がバラバラであり、現状一緒にできている時もあれば、出来ないときもあり、職員間での共有が必要。	職員が業者調理済みの副食を湯煎で温め、主食のご飯と汁物を台所で作った料理を食べている。女性の利用者は汁物の味付け、配膳、下膳、洗い物を手伝い、男性の利用者が食器拭きを手伝う姿が見られた。コロナ禍の昨年より外食の代わりとして職員が調理した天ざる、いなり寿司、お好み焼き、ホットケーキなどを楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	主治医との連携を取りながら、日々の変化に気づき連携が取れるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの計画を立てているが、職員の理解が出来ず、現在は職員の口腔ケアの大切さ等時間のある限り行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自立支援に向けて、退院後等は状態が安定すればオムツからリハビリパンツへの変更を行っている。	利用者の大半は昼間は布パンツを着用、自身でトイレに行っている。退院してきた利用者にはオムツから先ずリハビリパンツに移行できるように支援している。夜間はおむつの利用者には定時で排泄確認をしている。リハビリパンツ利用者には排泄パターンを確認して声掛けをしている。現在、3名の利用者が夜間にポータブルトイレを使用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便のコントロールを主治医との連携により行っているが職員全員が把握できておらず、今後研修等を行っていく必要がある。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日や時間帯は決まってはいるが、その日のご利用者様の状態により、柔軟に対応している。	利用者個々に決めた入浴手順に沿って、週2回午前中にお湯を毎回入れ替えて入浴支援を行っている。一人介助を基本とし、希望者には同姓介助を行っている。入浴拒否をする方には臨機応変に曜日変更や清拭の対応をしている。風呂場へのスムーズな移動を促すため入り口ドアに「娯楽室」と工夫した表示をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転にならないように、日中はお声掛けしながら離床時間の調整を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員の一部は薬の把握ができておらず、今後は研修を行う必要がある。服薬事故を起こさないようにルールを作り、ルールに沿った支援を統一し、新入職に対しては、研修やテストを行っている。また管理者によるチェックも行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	コロナの影響により外出や外部からのボランティアの活用がなくなっており、日々気分転換ができにくくなっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナの影響により実施できていない。	コロナ禍以前は、近隣の動物園や大衆演劇鑑賞や外食に出かけていた。以後は階段を登れる利用者は屋上で日光浴を楽しんでいるが、その他の利用者は近くの公園へは安全上、行くことができないので室内で日々を読書やテレビを見るなど思い思いに過ごしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人様のご希望があれば、必要なものであれば使えるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	現状できておらず、ご家族様との連絡が今後できるように考えていきたい。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	環境整備を行いながら、住みやすい環境作りを行っている	リビング兼食堂は広くゆったりとした空間となっている。壁際にテレビが置かれ、好きな男性アイドルの写真を張っている。棚には文庫本等が並んでいる。各居室のドアにはお花見や動物園での思い出の写真を張っている。天井からは飾り玉が飾られている。	当建屋は築後20年以上経過し、以前は職員寮や他事業所の施設として使われていた経緯もあり、経年劣化は否めないが、少しでも明るい清潔な雰囲気が出る工夫をして居心地よい空間づくりを期待する。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルやソファの位置を工夫し、会話のできる環境は作っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	好みの物や今迄使われていたものをお部屋に置けるように支援している。	居室に使い慣れた整理タンスや小物入れや置物を持ち込み、壁に好みの演歌歌手の大きな写真を貼って居心地よい工夫をしている利用者がある。タンスに転倒防止用のツツパリ棒を設置し、地震に備えている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	1人で出来ることなどの把握をし、その方に合わせた支援はしている。		